

新技術・情報名	イヌマキへの薬剤散布によるチャノキイロアザミウマのカンキツ被害軽減効果
場所名	長崎県果樹試験場

## 1. 成果の内容

### 1) 技術・情報の内容及び特徴

カンキツ、ブドウ、カキなど果樹の重要害虫であるチャノキイロアザミウマは寄主範囲が広く、果樹以外の樹種からの侵入によって、果樹の被害が左右される。

特にカンキツではその防風垣であるイヌマキやサンゴジュからの飛来が主な発生源となっている。

このためこれら飛来源のイヌマキにおける増殖を抑えて、カンキツへの飛来を減少させて果実の被害を軽減する方法を検討した。

第1世代増殖期である5月下旬と第3～4世代増殖期である7月下旬にミカン園周辺のイヌマキにチャノキイロアザミウマに殺虫効果が高い薬剤（アディオン乳剤3,000倍）を散布すると、イヌマキにおける生息数を著しく減らし、ミカン園への薬剤散布を行わなくても、ミカンの果実被害を軽減できる。

### 2) 技術・情報の適用効果

カンキツ園への薬剤散布回数が減り、薬剤費用を軽減できる。

### 3) 適用範囲

防風樹がイヌマキ、サンゴジュであるカンキツ園

### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

カンキツの集団栽培地域でイヌマキやサンゴジュの防風樹がある地域では防除効果は高いが、周辺にシイ、チャなどの増殖源がある地域では薬剤散布後の次の世代に増殖して飛来し、被害をだすことがある。

## 2. 具体的データ

表1 イヌマキ防除によるチャノキイロアザミウマの温州ミカン果実被害軽減効果

処理区	チャノキイロアザミウマ寄生数/20新梢								果実被害	
	処理前		処理後		処理前		処理後		果梗部 被害度	果頂部 被害度
	5月21日		5月31日		7月26日		8月6日			
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	被害度	被害度
イヌマキ防除区*	43	2	3	0	61	12	3	2	2.3	3.8
無処理	37	5	35	33	88	31	56	153	6.9	10.8

\* ) 5月21日、7月26日にアディオソ乳剤3000倍を散布した。

## 3. その他特記事項

担当部科名：病害虫科

研究課題名：果樹の生態系活用による害虫の総合管理技術の確立試験

研究期間：平成2年～8年